

# こころこころこころ

2025年発行

vol.

71

多職種座談会

ア ヤ

## AYA世代病棟の現場から

— 多職種協働で早期治療・退院支援に取り組む —

デイケアニュース

イベント報告

こころの医療センター しつとこ祭

### AYA世代病棟での対応

院長 森川 将行

令和5年中の児童・生徒の自殺者数は513人と、前年同様に高い水準となりました。少子化にもかかわらず児童・生徒の自殺者数が増えていることは、生きづらさを反映している可能性があります。

一方、ドラッグストアなどで手軽に購入できる市販の風邪薬などを過量に服用するオーバードーズ(市販薬の過剰摂取：OD)で救急搬送されるケースが増えており、また、高校生全体の約60人に1人が過去1年以内に市販薬の乱用経験があるという報告もあります。ODなどの自殺未遂は、将来的に自殺に至ることが知られており、早期からの対応が必要です。

最近、小児期に受けた虐待などの逆境的小児期体験(Adverse Childhood Experience：ACE)が成人期以降の心身の健康に影響を及ぼすことが報告されており、これらのトラウマへの対応も重要になります。

様々な生きづらさを感じている思春期、青年期においては、大人以上に個性に焦点を当てた対応が必要であり、大人が多い一般病床で対応することは困難を伴いました。そこで当院では主に中学生から20代を対象としたAYA世代病棟の運用を令和6年2月から開始しました。AYA世代とは、Adolescent and Young Adult(思春期・若年成人)の頭文字を取ったもので、この病棟において、様々な多職種が力を合わせてAYA世代を見守っていききたいと考えています。

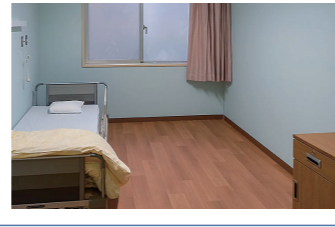


## AYA世代病棟の様子

起床から就寝まで、週間予定表の日課に合わせて行動することで、予測し行動する安心感を提供し、生活リズムを整えることを目指します。また、家庭菜園での収穫体験やお祭りなどのイベント運営、カードゲーム・ボードゲーム・卓球台・エアロバイクなど、さまざまな活動を通して適切なコミュニケーションの習得を図っています。折り紙やあやとり、水鉄砲など童心に帰る活動も好評で、デジタルデトックスに繋がっています。



AYA世代病棟の患者さんには個室で生活していただいています。



外部の音が遮断された静かな環境で過ごしたいときや、ストレスを発散することで落ち着くことを目的にしたいときに使用できる「クールダウン室」も設置しています。

## 多職種座談会

# AYA世代病棟の現場から

## — 多職種協働で早期治療・退院支援に取り組む —



東1病棟では中学生から20代を中心としたAYA世代の入院を受け入れています。開設から1年、病棟ではどのような看護活動が行われ、専門病棟ならではの効果が生まれているのか。日々現場で患者さんと向き合う多職種のメンバーが語り合いました。

keyword AYA=Adolescent and Young Adult (思春期・若年成人)

### 日常のプログラムへの参加で生活リズムが整えられる

**森川** AYA世代が入院する東1病棟では、多職種が協働しながら安心して入院生活をおくれる環境で日常生活を整え、早期治療・早期退院支援を行っています。病棟での主な取り組みを説明してもらえますか。

**松本** 生活習慣を整えられるように日課表を作成することで、予測して行動できるという安心感を提供できています。毎日の作業プログラムにはさまざまな遊びや身体を動かす活動を取り入れています。

**森川** 作業プログラムには皆さん、参加してもらっていますか。

**松本** 参加は患者さんの意思に任せます。難しい方もみえますが、そういう方でも興味を示してくれています。

**森川** 昼夜逆転の生活をおくっていた方も多と思いますが、入院生活の中で生活習慣は改善に向かっていきますか。

**松本** 朝食を終えた後、9時半に売店に行くことになっていて、そういう楽しみを取り入れて朝から活動を始めやすくなるように取り組んでいます。日中、身体を動かすようにす

ることで夜、眠れるようになり、生活リズムが整うという流れが生まれています。

**三輪** 楽しみを感じられるプログラムがあることで、自室にこもりがちな患者さんが部屋から外に出られるきっかけづくりになっていますね。

### 年齢差のある患者さん同士で交流が生まれることも

**牧野** 病棟でのイベントは他の病棟ではスタッフが企画・運営するんですが、AYA世代病棟では週に一度「患者ミーティング」を実施して、患者さんの意見を取り入れて、一緒に企画しながら実施しています。自分たちで決めたことを責任を持ってやり遂げたいという方もみえたのは印象的でした。

**生駒** プログラムの内容は気になるけれど積極的に皆の輪の中に入りにくいという方もみえますが、遠巻きにしながら顔を見せてくれたりするので、関心は持ってくれているように感じます。

**牧野** 患者ミーティングでの話題から皆で縄跳びで遊ぶことになって、大学生の方が跳んでいる姿を見た中学生の方が嬉しそうに一緒に加わってくれました。年齢差があっても遊

### 安心して自分の意見、感情を出せる環境づくり

**森川** 人間関係に悩んで不登校になったり、社会に出られなくなったりは、病棟でも同じように傷つくことを恐れていることもあります。介入や見守りの際に心がけていることはありますか。

**松本** 新しい方が入院したときには、一緒に遊ぶ機会を設けて、輪の中に入れるきっかけづくりをしています。夏場には水鉄砲遊びが流行って、皆で楽しんでる姿も。20歳を超えた人たちであっても、遊びの体験を通して少しずつコミュニケーションの取り方を学んでもらうことができます。

**森川** 人間関係に警戒心を抱いた状態になってしまっている方も多いと思いますが、ここなら安心して自分の意見、感情を出せると思ってもらえることが大切ですね。

**松本** 看護師との1対1の関係をしっかりと築いて、この大人は安心できる相手だと感じてもらう。そこから集団の輪に入っていきような形をイメージしながら取り組んでいます。

**三輪** 最初は病棟での生活に馴染んだら元の生活に戻れない気がするからと、ほとんどお話しされない方もみえました。それでも個室生活で自分一人で行われる場所が保障され、何かあったときには親身に聞いてくれるスタッフ、年齢の近い患者さんもお話しいただけるようになりました。

**森川** 個室という自分を守るべき城があって、タイミングを見ながら少しずつそこから出て行っても傷つかないで済む環境があるから、自分の意思を表に出せるようになる。健全な方向に心が発達していくことができます。

**生駒** 病棟生活において、安心できる関係性が構築されたことで、退院後に訪問看護の導入を提案したときにもスムーズに話を進めることができました。やはり安全が保障されていることで、次のステップに進みやすくなるのだと感じています。

**松本** 退院後に初回の外来診療に来てくれたときには会いに行くねと言っていると、嬉しそうに顔を覗かせてくれます。患者さんが元気に頑張っている姿を病棟のスタッフで共有して、スタッフも元気をもらえる。この好循環は続けていきたいですね。

### ご家族と本人の距離が取れて心の余裕が生まれることに

**松本** AYA世代病棟が立ち上がったことで、以前よりユース・メンタルサポートセンター(YMSC)と連携が密に取れるようになってきた面も感じています。

**生駒** 以前からYMSCで関わっていた患者さんが、病棟に入院されることも時々あります。入院して患者さんご家族が一時的に生活を別にするので、お互いに程よい距離が取れ、休息が得られているようです。

**森川** 常に密に接している状態から少し距離が取れて、余裕が生まれるんですね。

**松本** ご家族への支援という面では、CRAFITも並行して力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

**森川** AYA世代病棟に求められる役割は今後も高まっています。若年層の患者さんと関わるスタッフの皆さんの取り組みを病院全体で支援していきたいと思っています。

※家族支援プログラム「CRAFIT」の取り組みは「こころのこころ」67号で詳しくご紹介しています。



### 季節のイベント

夏祭りでは、和太鼓を囲んでデイケア音頭を踊りました。クリスマス会では、スタッフによる催しやビンゴ大会などを行いました。積極的に参加される方、イベントの雰囲気を楽しんだ距離から楽しむ方、それぞれの楽しみ方で過ごしていただけたかと思います。



今後も皆さまにとって安心して通える、楽しめるデイケアとなるよう、さまざまなプログラムを実施していきたいと思ひます。

### 各種大会

幅広い層から馴染みのあるオセロやトランプ、ボウリングなどの大会も臨時的に開催しています。今年に入り、ボードゲームの種類がより一層充実しました。その中でも人気の高いブロックスの大会も開催しました。少し緊張感ある中で行われた大会では、普段とは一味違った楽しさもあったとの意見をいただいています。



### 外出プログラム

定期的な外出プログラムを設けており、今年は鳥羽水族館、いちご狩り、潮干狩り、斎宮歴史博物館、みかん狩り、県庁見学などへ出かけました。外出プログラムを通して、気の知れた仲間と出かける楽しさや、自然と触れ合うことの大切さを感じることができたとの感想もいただいています。一人では…と躊躇する旅先への外出も、デイケアの仲間とともにいかがでしょうか。



## イベント報告 こころの医療センター しつとこ祭 開催しました

2024年11月9日(土)、「三重県立こころの医療センター第17回しつとこ祭」を開催しました。天候にも恵まれ、青空のもと、今回は入院中の患者さんや外来に来られている患者さんに加え、病院近くの方域の方もお迎えしました。

ステージの催しでは、地域の中学校の吹奏楽部の皆さんや、よさこいグループの方々をお招きし、素敵な演奏や踊りを披露していただきました。また、お楽しみ企画として、スタンプラリーや射的、プラン作り、屋台、健康チェックコーナーなどをご用意、いずれも大盛況でした。さらに今回は、津市のマスコットキャラクター、シロモチくんとチェキ

会(ポラロイド写真撮影会)も企画し、写真撮影や触れ合いを楽しんでいただきました。

新型コロナウイルスの影響でしつとこ祭の開催が難しい時期が続いておりましたが、今回のお祭りでは、屋台の食べ物を選んだり、射的に真剣に挑んだり、楽しむ皆さんの顔を見ることができました。また、今回のしつとこ祭開催にあたり、ご賛同いただきました津市内の2企業様からは、自社製品をご提供いただきました。誠にありがとうございました。

今後も、当院を利用される皆さまや地域の方と交流できる場となるようなイベントを行っていきたく思います。



### 外来担当医

※休診日／土・日曜・祝祭日及び年末年始

初診外来は、予約制です。ご予約先：初診外来予約専用電話 059-253-3120(9:00~13:00)

	診察室1	診察室2	診察室3	診察室4	診察室5	診察室6	診察室7	診察室10	診察室11	診察室12
月	初診	久納	山尾	濱本			坂本	山城		
火	初診	森川		芳野	中瀬	吉見	小畑	藪	(もの忘れ) 吉丸 脳神経内科	
水	初診	佐野	乾	AM 楠本			小畑	山城	(もの忘れ) 吉丸 脳神経内科	
木	初診	森川	乾	AM 外部医師	久納	金井	山本		三輪	PM 中島
金	初診	AM 森川(もの忘れ)		芳野	AM 外部医師	佐野	吉見	藪	(もの忘れ) 小川 脳神経内科	

※令和6年10月1日現在

### 編集後記

慌ただしく師走が過ぎ、気分新たに新年を迎えました。私の所属するデイケアでも若い方の利用が増えており、いろいろなサポートを勉強させていただいております。さて、コロナも少し落ち着いてきたところではありますが今冬はインフルエンザが猛威を振るっております。皆さまもご自愛いただき、よい冬をお過ごしください。  
広報委員会／デイケアG 村田



三重県立こころの医療センター

〒514-0818 三重県津市城山1丁目12-1  
TEL 059-235-2125 FAX 059-235-2135

URL <https://www.pref.mie.lg.jp/KOKOROHP/HP/>

